

令和8年3月13日

保護者様

新居浜市立神郷小学校校長
小野 英雄

令和7年度神郷小学校の教育活動についての評価結果

弥生の候、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。さて、先日は学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。学校ではその結果を基に、本校教育の改善、充実に向けて協議を行いました。そのアンケート結果と考察内容をご報告いたします。

本校の自己評価

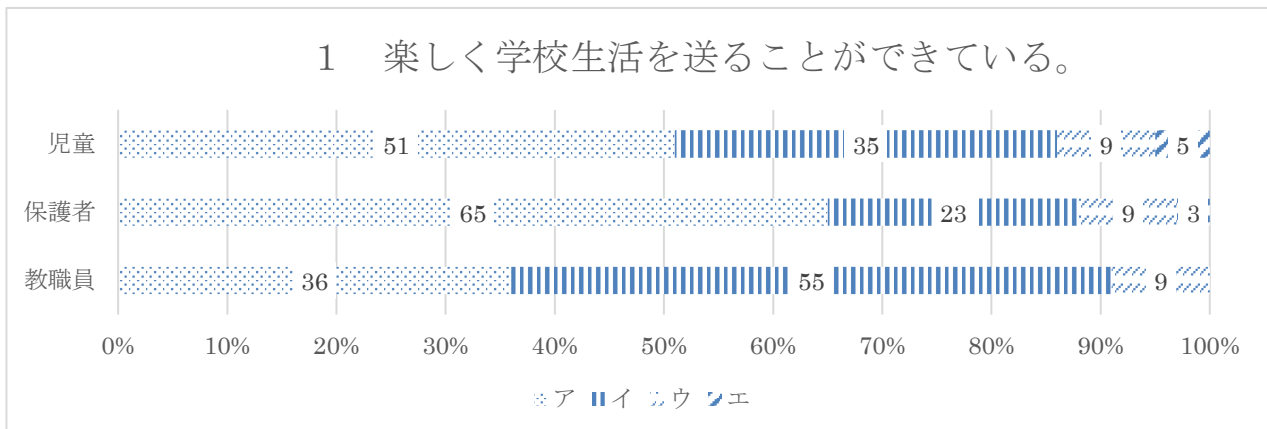
(1) アンケート結果と考察及び改善策等

今年度も、児童、保護者、教職員に対して、同じ観点の項目アンケートを実施しました。これは、学校（教職員）の取組が、児童や保護者にどのように受け止められているかを明確にすることで、本校の教育活動のより具体的な改善につなげるためです。また、教職員の意識改革を図ることにも役立てていきたいと考えています。全体的には、「できている・大体できている」という肯定的な評価を80%以上受けている項目が多く、本校の教育活動について一定の評価をいただいているものと考えられます。しかし、「あまりできていない・できていない」の割合が高い項目もありそれらの改善が課題となっています。これから、改善に向けての方策を打ち出し、一人一人を大切にしたい、きめ細かい学習指導や生徒指導の取組を教職員全員で継続していく必要があると考えています。

アンケート結果 回答項目

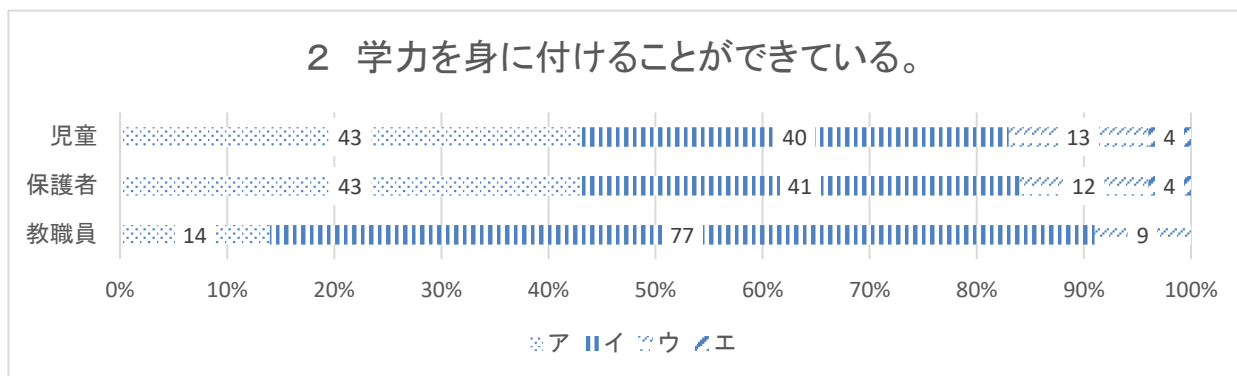
(ア：できている イ：大体できている ウ：あまりできていない エ：できていない)

【1 学校生活について】



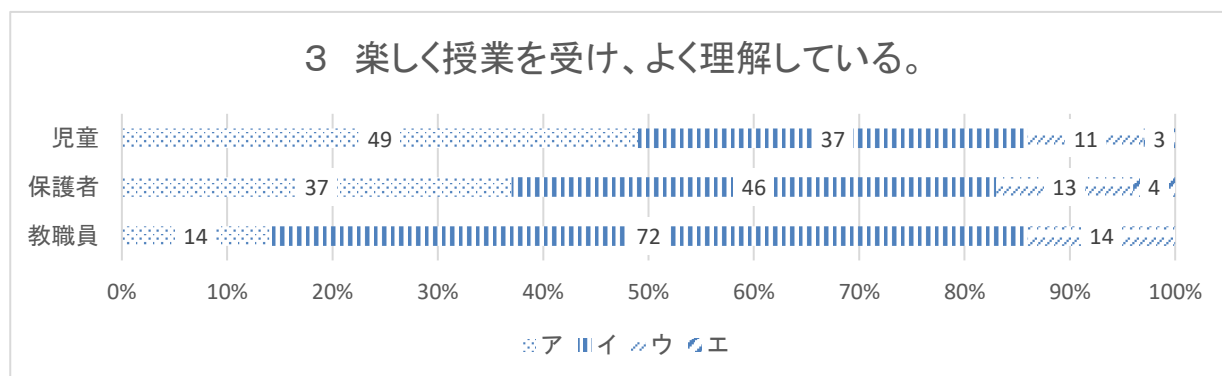
今年度のアンケートでは、児童の86%、保護者の89%、教職員の91%が「楽しく学校生活を送ることができている」と回答しました。特筆すべきは児童の肯定評価が昨年度より5%上昇したことであり、学校や学級で自分の居場所を見付け、認められながら充実した毎日を過ごせていることがうかがえます。この数値の向上は、日々の授業でのICT活用による学びの広がりや、休み時間の教職員との交流、そして何よりご家庭での温かな励ましが、子どもたちの「登校の意欲」を支えた結果であると考えております。現状に満足することなく、残りの約14%の児童の声にも真摯に耳を傾け、全員が「明日も学校へ行きたい」と心から思える、笑顔あふれる学校づくりに引き続き邁進してまいります。

【2 学力】



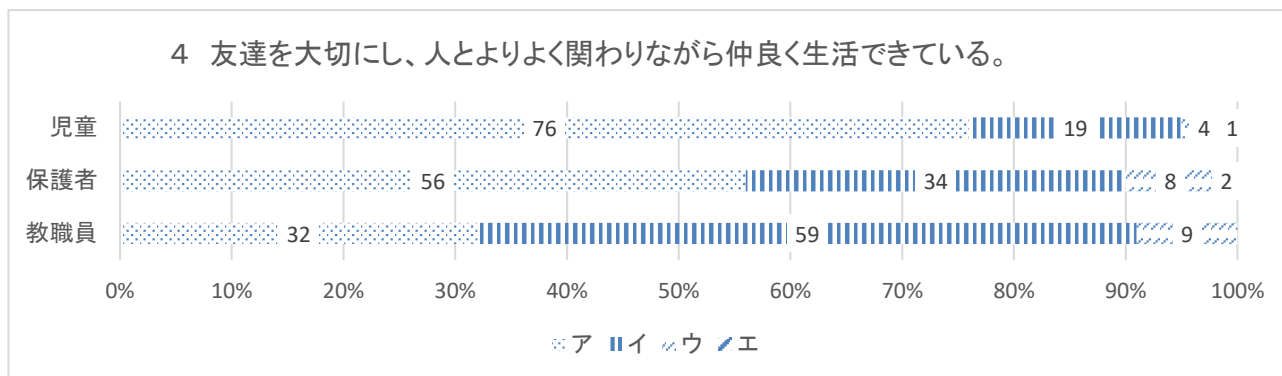
児童、保護者、約 84%、教職員の 91%が学力を身に付けることができていると回答しており、一定の評価を得られていると感じています。しかし、17%の児童が学力を身に付けることができていると回答しており、これが楽しく学校に通えていない理由の一つとも考えられます。全ての児童が、基礎的・基本的な学力を身に付け、安心して学校生活を送ることができるように、教職員の指導力向上や授業内容の充実に努めていきたいと思ひます。

【3 授業改善】



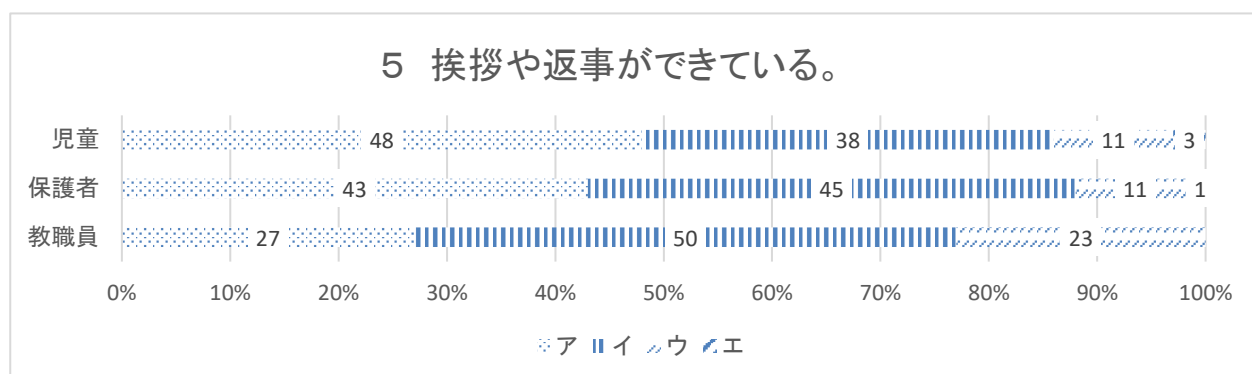
学校では、児童主体のよく分かる授業を目指し、課題解決学習・ICT機器の活用・体験学習など授業改善に取り組んでいます。「学校の授業がよく分かる・大体分かる」という児童は約 86%となっており、前年比 5 %増となっています。しかし児童、保護者、教職員の 15%が「指導内容を十分に理解できていない」と答えています。本校では、重点目標の第一に学力保障を挙げ、様々な取組を行っています。児童の基礎学力の定着を図り、興味・関心を大切にしながら、児童の実態に合った授業や学習方法を研究し、学力向上に向けて児童の学ぶ意欲が高まる授業づくりに努力していきなさいと思ひます。

【4 人との関わり】



児童 95%、保護者、教職員ともに約 90%が、友達を大切にし、人によりよく関わりながら生活できていると感じています。これは、昨年度と同様に高い数値を示しています。学級活動や特別な教科道徳などで自分や周りの人を大切にしなが、みんなで議論し高めていこうとする取組や、なかま委員会を中心としたなかま集会やよいところさがしの活動、異学年交流遠足などの成果が出ていると考えられます。これからも、学校で行う様々な活動の中で、相手を思いやる気持ちを大切にしながら集団づくりを進め、コミュニケーション能力を高めていきたいと思っています。

【5 挨拶・返事】

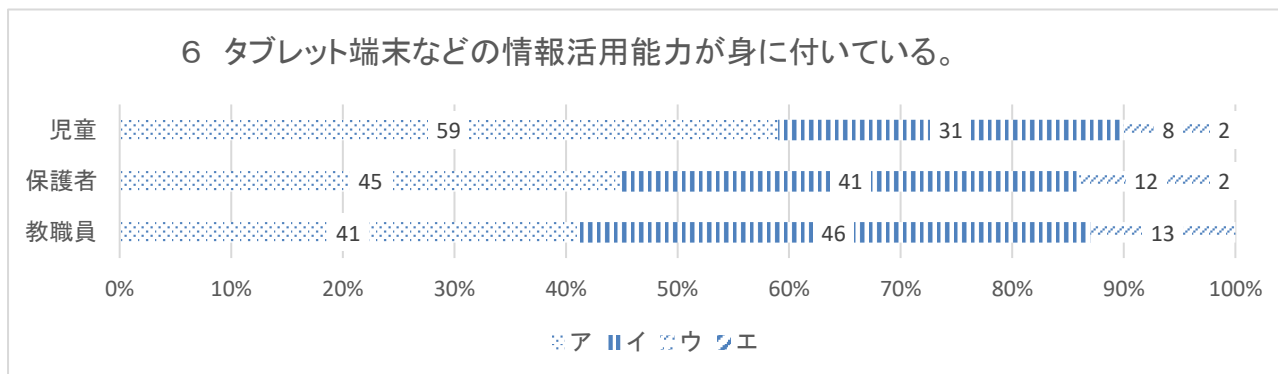


挨拶・返事については、児童 86%、保護者 88%ができていると答えており児童・保護者の皆様から高い評価をいただきました。学校全体として、明るく健やかな雰囲気活動できていることがうかがえます。

一方で、教職員の自己評価が 77%と、児童・保護者の皆様の評価に比べてやや低くなっています。この数値の差は、教職員が捉えている指導上の課題が反映されているからと考えます。児童は、授業の開始や終わりの挨拶など、集団で一斉に行う場面では、はじめをつけてしっかりと行うことができます。しかし、正門・西門での登校時や、教室・職員室に入るときなど、「自分から」「相手を意識して」行う自発的な挨拶については、まだ個人差が見られるのが現状です。

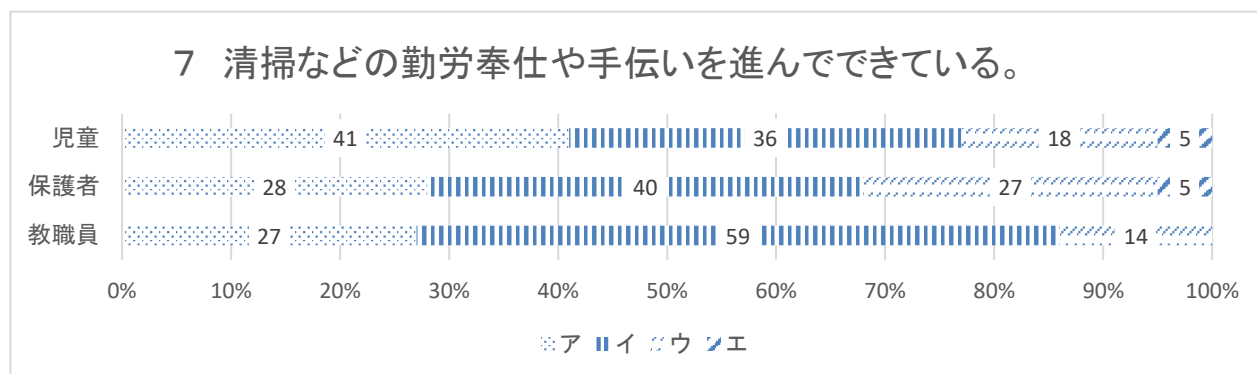
今後の指導として「言われたからする挨拶」から、相手の心に届く「自発的な挨拶」へのステップアップを目指していきたいと思っています。そのためにも、教職員がこれまで以上に率先して、名前を添えた元気な挨拶を行い、児童が自分から挨拶しやすい雰囲気をつくりま。また、挨拶は社会生活の第一歩です。学校だけでなく、ご家庭でも「玄関を出る時の挨拶」や「近所の方への会釈」など、児童が自発的に動けるよう、折に触れてお声掛けいただけますと幸いです。

【6 情報活用能力】



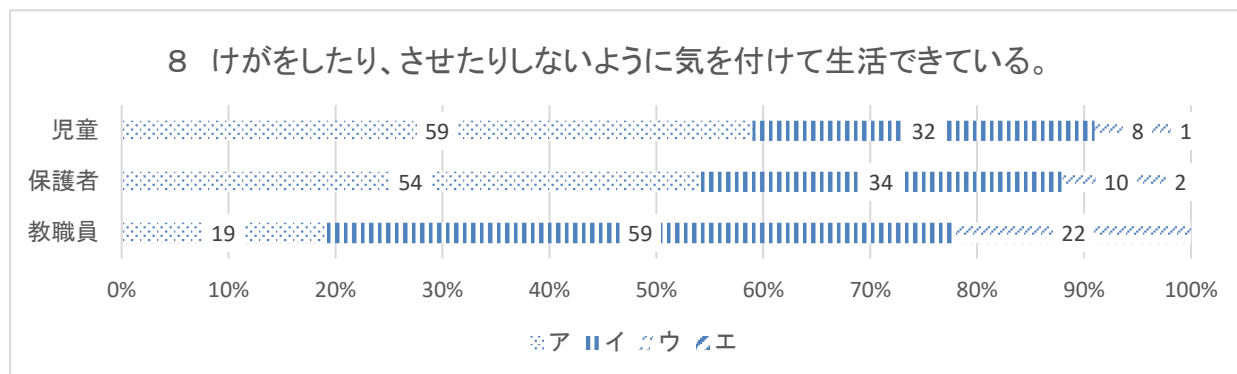
これからの社会において必須の力となる「情報活用能力」につきましては、児童 90%、保護者 86%、教職員 87%と、全方位で極めて高い肯定評価をいただきました。ICT 端末の活用が日常化し、家庭と学校が一体となって新しい学びに適応できている結果であると捉えております。今後は、単に端末を操作したり検索したりする段階から一歩進み、得られた情報を分析し、自分の考えを構築・表現できる力の育成に重点を置いた学習内容の充実を図っていきます。合わせて、ネットモラルについても学習を深め、情報社会との健全な付き合い方を児童一人一人が自律的に考えられるよう指導していきたいと思います。

【7 勤労奉仕】



勤労奉仕については、保護者の皆様の肯定的な評価が 68%と、全項目の中で最も低い結果となりました。しかし、教職員の評価は 86%、児童自身も 78%と高く、保護者の皆様の意識と大きな開きが見られます。これは、学校内で一生懸命に清掃に励む姿がある一方で、その姿勢がご家庭での自発的なお手伝いや身の回りの整理整頓にまでは、十分に結び付いていないという課題を示唆しています。学校で身に付けた力が「学校の中だけ」で終わってしまっていることは、本校としても真摯に受け止めなければならない点です。今回の結果を受けまして、今後は学校での活動が「誰かのために働く喜び」として児童の心に根付き、ご家庭や地域でも自発的に発揮できる実践力を育てていきたいと考えております。勤労は、社会を生きる上での大切な土台です。学校とご家庭が歩調を合わせ、児童の成長を温かく、時に厳しく見守っていけるよう、引き続きお力添えをお願いします。

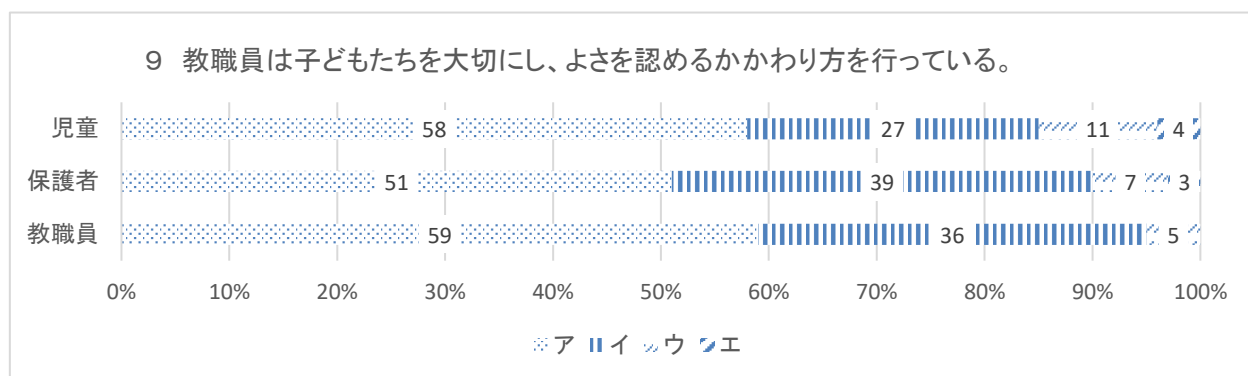
【8 健康・安全】



「健康・安全」の項目につきましては、児童の91%、保護者の皆様の88%から肯定的な回答をいただきました。自他の命を大切にし、安全に行動できる児童が育っていることを大変うれしく感じております。一方で、教職員による「怪我をさせたり、怪我をさせたりしないように生活している」という設問への評価は78%にとどまりました。これは、大きな事故には至っていないものの、校内での過ごし方において「一歩間違えれば怪我につながるような場面」を教職員が重く受け止め、より高い安全意識を求めている結果であると分析しています。この数値の差を、決して現状に満足することなく、更に安全な学校環境を整えていくための指針としていきます。そして、継続して健康安全教育に努めてまいります。

今後ともご家庭、地域での見守り活動のご協力をよろしくお願いいたします。

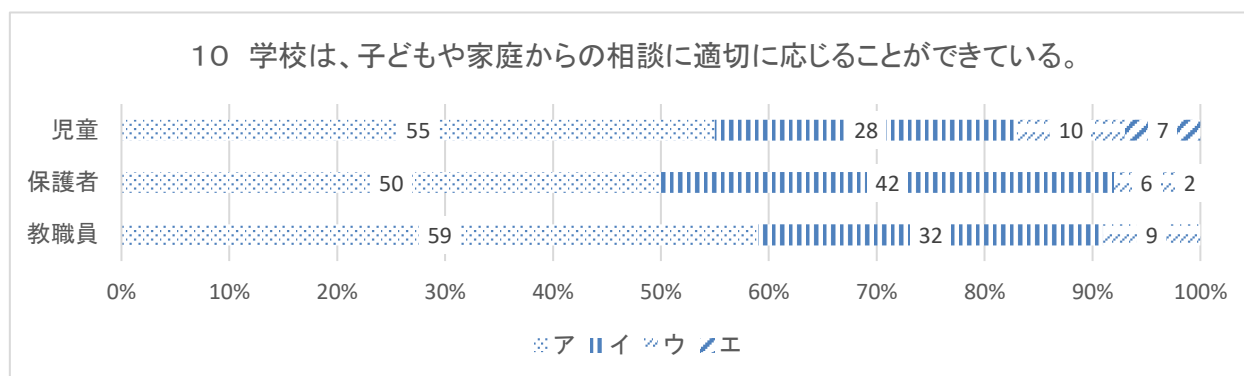
【9 児童のよさ】



教職員の児童への関わり方について教職員95%、保護者90%、児童85%と、三者ともに極めて高い評価となりました。

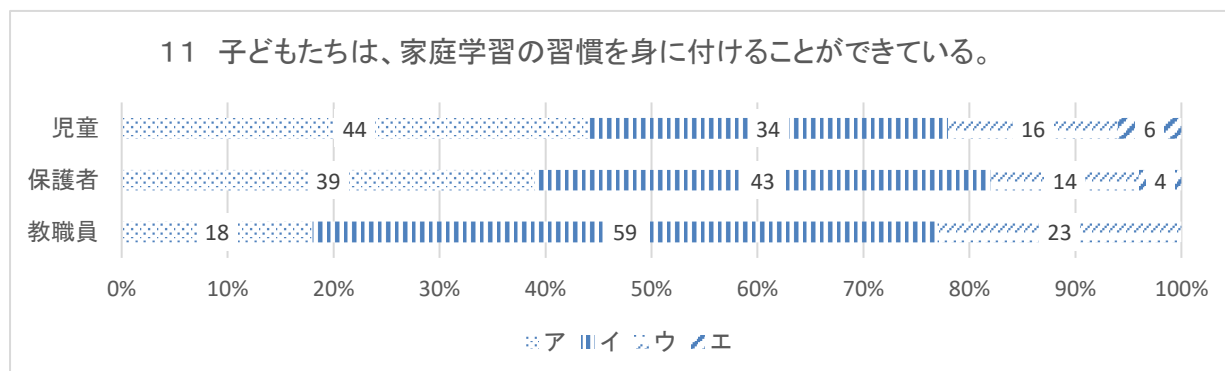
本校では、日頃から児童の頑張りを認める言葉掛けを大切にし、休み時間には教職員も一緒に校庭で遊ぶなど、日常の関わりを積み重ねています。こうした心の交流が、数値として表れたものと捉えております。しかし、教職員の肯定評価に比べると保護者、児童の評価は若干低く、よさを認め関わっているつもりが相手に届いていない実態を真摯に受け止めなければなりません。今後も児童の小さな変化や成長のサインを見逃さないよう、一人一人に寄り添ったきめ細やかな対応に努めてまいります。良好な信頼関係をすべての教育活動の基盤とし、児童が安心して自分らしさを発揮できる学校づくりを推進いたします。

【10 教育相談】



教職員の児童・保護者への関わり方については、児童 83%、保護者の 92%、教職員 91%が肯定的に捉えています。今回の結果から、相談体制や教職員の接し方について、保護者の皆様の満足度に比べ、児童自身の数値にはまだ向上の余地があることが分かりました。大人の「適切に応じた」という認識で満足せず、児童一人一人が「自分の思いが届いた」と心から実感できるよう、改善に取り組みたいと思います。まず、相談を受けた際は解決を急ぐだけでなく、本人の気持ちを最後まで「聴き切る」時間を確保し、話しやすい雰囲気づくりを徹底します。また、対応後も児童の様子を継続的に見守り、「その後どうかな？」とこまめに声を掛けることで、安心感の定着を図ります。目指すのは、どんな小さな悩みでも一人で抱え込まず、即座に身近な大人を頼れる環境です。「先生に相談して良かった」という実感が積み重なるよう、これまで以上に一人一人の心に寄り添った丁寧な対応に努めてまいります。

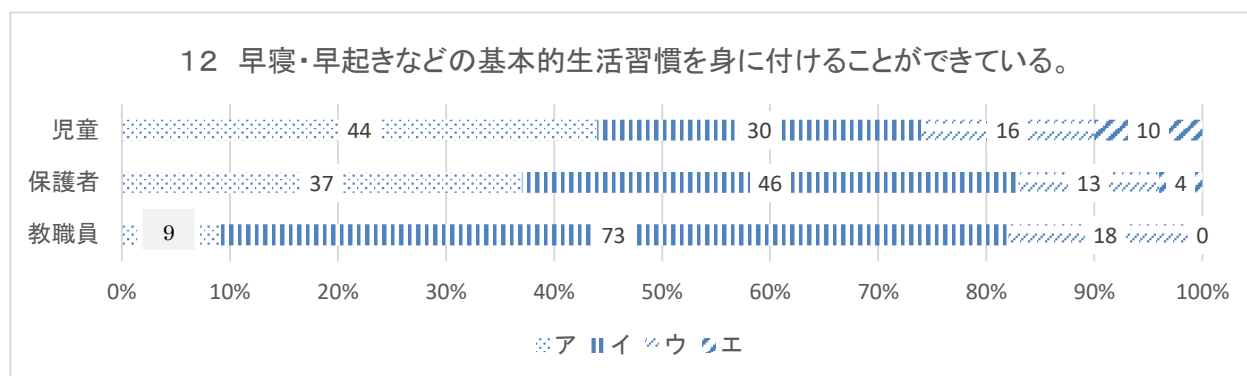
【11 家庭学習】



「家庭学習の習慣が身に付いているか」という設問では、児童の 78%、保護者の 82%、教職員の 77%が肯定的でした。他の項目と比較すると全体的に慎重な評価となっており、学習の質や継続性において、まだ課題があると感じられているご家庭が多いことがうかがえます。

家庭学習で培われる「自分で自分を律して机に向かう力」は、将来にわたる一生の宝となります。学校では、一人一人の興味関心に合わせた課題の提示や、ICT 端末を効果的に活用した「持ち帰り学習」の充実を図り、学習への動機付けを強化してまいります。ご家庭におかれましては、学校が告示しております家庭学習の目安を参考に励ましていただければ幸いです。学校と家庭が連携し、無理なく楽しく家庭学習を継続できるリズムづくりを、ともに進めてまいりましょう。

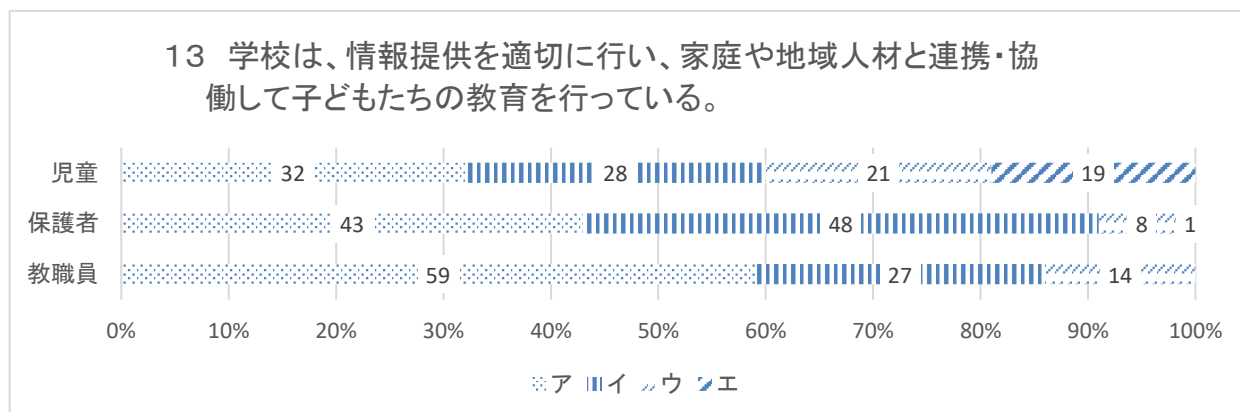
【12 基本的な生活習慣】



「早寝・早起き等の基本的な生活習慣が身に付いているか」という問いに対し、保護者の83%、教職員の82%が肯定的である一方、児童の自己評価は74%にとどまりました。大人が見る姿以上に、子どもたち自身が「睡眠時間の不足」や「生活リズムの乱れ」を自覚し、課題に感じている現状がうかがえます。

健やかな体と心は、規則正しい生活から育まれます。特に十分な睡眠は、日中の集中力や情緒の安定に直結する、学びの基盤です。学校では、保健学習や学級活動を通して、生活リズムが心身に与える影響について指導を深めてまいります。ご家庭におかれましても、お子さんの健やかな成長のため、就寝時刻のルールづくりやメディアとの付き合い方について、改めて話し合う機会を持っていただければ幸いです。

【13 情報提供・地域連携】



学校の情報提供や地域連携について、保護者の皆様からは91%という極めて高い評価をいただきました。日頃からの本校の教育活動へのご理解と、ボランティア等を通じた温かいご協力に心より感謝申し上げます。

一方、児童の肯定評価は60%にとどまっており、大人側の密な連携が、子どもたちの実感にまでは十分に結び付いていない現状があります。今後は、地域の方々との交流や保護者の皆様の協力が、自分たちの学びにどうつながっているのかを子どもたちに分かりやすく伝え、「地域に支えられている」という感謝と誇りを育む活動を充実させてまいります。

学校・家庭・地域が手を取り合う「地域とともに育つ学校づくり」の良さを、子どもたち自身も肌で感じられるよう、更なる協働の在り方を模索していきたいと思います。

【14 自由記述欄】

貴重なご意見が寄せられました。次年度の参考にさせていただき、努力してまいりたいと思います。

保護者より

- 本当によく子どもを見ていただき、感謝しかありません。『普段が大事』の掲示にも感動いたしました。
- ポケカやドルなど子どものやる気や楽しみにつながっているのもこれからも続けてほしいです。
- 登校時、友達の受け入れもよく楽しかったと帰ってきてくれることがありがたい。適宜相談にも応じてくれている。
- 5年生の自然の家。先生方のおかげで、普段なかなかできない経験をたくさんさせてもらい、かけがえのない思い出ができたようです。本当にありがとうございました。
- 勉強が嫌いで学校に行きたくないと毎日言っているけど、担任の先生のおかげで学校に楽しく通えていると思います。
- クラスでの子どもの生活は、友達との関係はもちろん、担任の先生と合う合わないが大きいと感じる。幸い今年はよい先生に恵まれ、昨年と違い話も聞いてもらえ、萎縮することなく子どもは楽しそうだった。
- いじめには至ってないと思うがスマホの有無でトラブルは多発しているかと思うので、学校でのやりとりには気を付けてほしい。
- スマートフォンや SNS を通じたトラブルへの懸念を共有していただき、ありがとうございます。ご指摘の通り、直接的な「いじめ」には至らなくとも、言葉の行き違いや所有の有無による疎外感など、SNS を起点としたトラブルは日常的に起こり得ると重く受け止めております。スマホ利用はご家庭の判断によるものですが、その影響が学校生活の安心を脅かさないよう、今後もネットモラルの啓発に力を入れてまいります。お気付きの点がありましたら、いつでもご相談ください。
- 家庭訪問など、給食なしにするのはやめてほしい。せめて給食は食べさせてほしい。
- 今年度は給食センター化に伴う初めての家庭訪問であったため、配送スケジュールの確認や下校時の安全確保、および訪問時間の十分な確保を優先し、給食なしの措置をとらせていただきました。保護者の皆様から「昼食の準備が負担になる」「学校で食べさせてほしい」という切実な声を多くいただいたことを重く受け止めております。来年度につきましては、今年度の運用状況を踏まえ、児童の健康的な生活とご家庭の負担軽減を第一に考え、給食を提供した上で訪問を実施する方向で計画を進めております。
- 短縮授業や早い下校の日が他校と比べて多すぎる。学習の機会を奪わず、学校で勉強する時間をもっと確保してほしい。
- 下校時刻が早まることによる学習機会の減少について、ご心配をお掛けしております。本校では、学習指導要領に基づいた年間授業時数を、余裕を持って確実に確保・実施しており、学力定着に必要な学習時間は十分に満たしておりますので、どうぞご安心ください。

短縮授業を行う日の多くは、教職員が指導技術を磨くための研修会や、一人一人の児童への支援を話し合う会議に充てております。ここで得た成果を日々の授業の質を

向上させることで還元し、限られた時間の中でより深い学びを実現できるよう努めております。今後も効率的な学校運営を心掛け、子どもたちが学校で集中して学び、充実した時間を過ごせるよう、指導の質の更なる向上に邁進してまいります。

○ 6年生になって特に楽しそうに通えているように見えます。金管バンドについて、急な予定の変更が多いので、マチコミなどを活用して混乱がないように工夫していただけると今後入られる方についても親子共によいと思います。

→ 6年生になり、充実感を持って登校しているとのこと、教職員一同大変うれしく励みになります。金管バンドの活動予定につきまして、急な変更等でご家庭にご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。ご指摘の通り、見通しを持った活動は親子共々の安心につながると認識しております。今後は、予定の変更が生じた際の迅速な連絡を徹底するとともに、できる限り早期のスケジュール共有に努めます。

○ 子どもが休んだときにプリント類が届かないと覚えることがあった。

→ お子様欠席された際、学習に必要なプリント類が届かず、ご不便とご心配をお掛けしました。「その日の重要な配付物」については、内容をお知らせするなど、迅速な情報共有に努めてまいります。

○ 居残りが多すぎる。態度が悪いなどの居残りがほとんどですが、都度注意する、親に詳細の連絡などの対応をお願いします。子どもに何も響いてないです。

→ 放課後の指導に関しまして、ご負担とご心配をお掛けしております。また、「本人に響いていない」というご指摘を重く受け止めております。今後は、その場その場での「都度注意」を徹底し、本人の納得感を高め、指導が必要となった経緯や、学校での本人の様子については、電話連絡等を用いて、当日中に詳細を保護者様へお伝えいたします。

○ 参観日の日、先生が「うるさい子はシッシ」と手でやっていたのですが、感じが悪いと思いました。他の保護者の方にも相談したのですが、「あれびっくりしたね、あれはいかんよね～」と同じ意見の方もいたので、シッシと言う言い方ややり方は、教育者としてはどうかと思います。

→ 参観日の際、教員の不適切な仕草や言動で不快な思いをさせ、深くお詫び申し上げます。教育者としてあってはならない姿であり、重く受け止めております。全教職員でこの声を共有し、児童一人一人の尊厳を大切にする温かな言葉掛けと、適切な立ち振る舞いを徹底してまいります。

○ 先生の言葉遣いが低学年の児童に対して適正ではないと覚えることがよくあります。自分に言われてなくてもその言葉を耳にするだけで不快に覚えることがあるそうです。

→ ご指摘を重く受け止めております。たとえ自分に向けられた言葉でなくとも、不適切な言動を耳にすることは、お子様にとって大きな心理的負担となります。

発達段階に応じた温かく正しい言葉遣いを徹底し、どの子も萎縮することなく、安心して過ごせる学級環境づくりを全教職員で進めてまいります。

○ 夏休みや冬休みの宿題等の明記についても、宿題のリストと実際のやるべき対象の整合性がとれていないため分かりにくいので、名前を一致してほしい。

→ ご指摘ありがとうございます。宿題リストと実際の教材名の不一致でご混乱を招き、申し訳ありませんでした。今後は、配付するリストの名称と教材の表題を一致させるよう徹底いたします。

- 計画帳がタブレット配信のみになり、先生へのちょっとした伝達ができなくなった（1年生の時は計画帳に記載していた）ので、タブレット配信を常態化するなら、双方向の情報共有の為にも代替案がほしいと思います。
 - 計画帳は低学年のうちはタブレットではなく、ノートに書くなどしてくれたほうが親のチェックがしやすい。先生への連絡もしやすい。
 - 計画帳や連絡事項をタブレットに送るのはやめてほしい。（子どもが気付かないことがあるので。）特に大切な連絡は保護者にも確実に伝わるように、マチコミなどで伝えてほしい。計画帳をタブレットに送るなら、子どもの下校と同時くらいに送ってほしい。習い事もあるので、6時や7時に送られると宿題ができない。
- 計画帳の運用につきまして、貴重なご意見をいただきありがとうございます。低学年時と比較しての変化や、家庭学習への影響についてのご心配、重く受け止めております。本校では、6年間の積み重ねの中で、自立した学習者を育てたいと考えております。計画帳を自ら書き、翌日の準備を確認する工程は、単なる作業ではなく、自分の生活を自分で管理する力を養う大切なプロセスです。「自分で書かないと身にならない」「宿題や忘れ物の管理を自分事として捉える」という教育的視点に立ち、来年度より運用を改善いたします。原則として計画帳（ノート）への自筆に戻します。自分の手で書くことで、予定を強く意識し、忘れ物を防ぐ自省の機会をつくります。宿題の有無についても、自ら書いた記録を基に家庭で確認する習慣を促します。一律の配信はやめますが、支援が必要な児童や、書くことに著しい困難がある場合などは、個別にタブレットを活用するなど、一人一人の特性に応じた柔軟な対応を継続いたします。「ちょっとした伝達」がしにくいという点については、計画帳への記入を通じて、これまで以上に緊密な情報共有を図ってまいります。また、緊急・重要な連絡については「tetoru（テトル）」の配信も併用し、確実に保護者の皆様へお届けします。「自分の身になることは、自分でしなければ身にならない」という考えのもと、ご家庭と学校が車の両輪となって、お子様の成長を支えていければと考えております。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。
- 紙のプリントが多すぎるので、単純な案内くらいの内容なら、もっとマチコミなどデータ配信を増やしてほしいです（そのままスマホにデータ保存できるので助かります）。
 - マチコミを使つての情報提供が、他校に比べて少ない。
 - マチコミの括りを学年単位でなく、クラス単位にすれば先生も活用しやすいのではないかと思います。（タブレットの計画帳の補足など、保護者にだけ伝えたい情報発信もしやすいのではないかと思います）。
- 紙のプリント削減とデジタル配信の拡充、および連絡システムの活用について貴重なご意見をありがとうございます。来年度からは、新システム「tetoru（テトル）」を導入し、これまで以上に積極的なデータ配信を行います。これにより、単純な案内等はスマートフォンで手軽に確認・保存いただけるようになります。また、配信の括りを現在の「学年単位」から「クラス単位」へと細分化いたします。これにより、各担任から学級独自の連絡や、タブレット内の計画帳の補足説明など、保護者の皆様に直接お伝えしたい情報をより迅速かつ正確にお届けできる体制を整えてまいります。デジタル化の利点を最大限に生かし、学校とご家庭をより円滑につなぐ情報共有の充実に努めてまいります。

○ 参観の様子を勉強風景より、友達との関わりの様子など見てみたい(給食や体育、昼休みなど)。

→ 授業内容だけでなく、お子様の対人関係や学校での生活の様子を見たいというご要望、ありがとうございます。今後は、教室内での授業に限らず、体育や休み時間の様子など、お子様の多様な成長や友達との関わりをご覧いただけるような参観の在り方を検討してまいります。学校生活をより多面的に感じていただける機会を増やせるよう、工夫を重ねてまいります。

○ 下校送迎時、西駐車場の利用マナーが悪い。

→ 西駐車場の利用に際し、一部でマナーの低下が見受けられるとのご指摘を重く受け止めております。お子様の安全を確保することは学校・保護者共通の願いです。今後は、改めて全保護者の皆様へ駐車ルールや安全な進路についての周知を徹底するとともに、教職員による見守り活動を強化いたします。また、特定の車両による危険な行為などが改善されない場合は、個別に注意喚起を行うなど、誰もが安全・スムーズに利用できる環境づくりに努めてまいります。

この度は、学校評価アンケートを通じて貴重なご意見・ご要望をお寄せいただき、誠にありがとうございました。指導の在り方や言葉遣い、デジタル化に伴う運用の課題、そして安全面でのマナー向上など、多岐にわたるご指摘を真摯に受け止めております。学校として至らぬ点については速やかに改善を図り、お子様一人一人が安心して学び、成長できる環境を整えていく所存です。保護者の皆様からいただく貴重なご意見は、私たちの教育活動の大切な指針となります。今後とも、よりよい学校生活を目指して努力してまいりますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

学校関係者評価委員より

学校関係者評価委員の皆様によるアンケートでは、多くの項目で肯定的な評価をいただきました。一方で、以下の項目については具体的な課題をご提示いただき、深く受け止めております。

- ・いつも熱心に指導いただきありがとうございます。学校からのお知らせなどデジタルツールの活用の要望の声が多く聞こえてきました。
- ・先生や児童のみなさんがいつも気持ちのよい挨拶をしてくれていてとてもいい環境だと思います。いつも様々な行事で園児を受け入れてくださり感謝しています。
- ・挨拶については、今年の4月に中学校正門で朝の挨拶をしても誰も返してこなかったのでも中学1～3年生とも習慣化されていなかったのだろうと感じた。挨拶に対して返礼ができればと思う。
- ・「友達を大切にし、人とよりよく関わりながら仲良く生活できる。」「挨拶や返事ができている。」の項目が学習よりも重要だと考える。アンケート結果は良いのでいいことである。これを続けてほしい。挨拶については、教職員の評価が低い。これは、一個人

の挨拶ができていないということなのか。人との関わりが重要なので挨拶、返事をしっかりと指導してほしい。

- ・「学校は情報提供を適切に行い、家庭や地域人材と連携・共同して子どもの教育を行っている。」の児童の意見が60%と低い。子どもが実感できていないことを学校、地域が重く受け止め、地域の大人が子どもに実感できるようにしなければならない。学校がつながりを知周知するだけではいけない。
- ・学校運営協議会として、学校と地域代表で年3回、1回1時間程度で会を開催し細かなところを詰めて話をしていきたい。
- ・学校と地域のコーディネーター機能が弱い、具体的に話し合う場を持っていきたい。
- ・中学校から見ると、地域と小学校は連携がよく取れている。しかし、地域の方が支えていただいていることが当たり前になってしまって、子どもたちは気付いていないのではないか。高学年になれば、そういったことも見えてくるので、当たり前のことではないことを教えていく必要がある。

学校より

学校関係者評価委員の皆様からは、日頃の教育活動への温かい励ましとともに、学校・家庭・地域が一体となって取り組むべき喫緊の課題について、極めて重要な示唆をいただきました。

特に「挨拶・返事」については、児童や保護者の肯定的な評価に対し、教職員の自己評価が低く、委員の方からも「中学校正門での挨拶に返礼がない場面がある」との厳しいご指摘をいただきました。挨拶は人とよりよく関わるための基盤であり、学習以上に重要な生活習慣であると再認識しております。教職員の評価が低い現状を、指導の質に問題があると捉え、大人が率先して模範を示すとともに、相手の目を見て心を通わせる挨拶が習慣化されるよう、日常のあらゆる場面で粘り強く指導してまいります。

また、情報提供と地域連携については、保護者の評価が91%と高い一方で、児童の肯定評価が60%にとどまっている点を重く受け止めております。「地域に支えられていることが当たり前になり、子どもたちが気付いていないのではないか」という中学校からの視点や、「学校がつながりを知周知するだけでなく、子どもたちが実感できるようにすべき」という委員の皆様のご指摘は、今後の指針となります。地域の方々の協力が自分たちの学びにどうつながっているのかを具体的に伝え、感謝の心を育む教育を推進いたします。今後は、デジタルツールの活用による迅速な情報共有を進めるとともに、学校運営協議会において年3回程度の具体的な協議の場を設け、学校と地域のコーディネーター機能を強化してまいります。地域の大人が一体となって子どもたちの成長を支えていることを、子どもたち自身が肌で感じられる「地域とともに育つ学校づくり」をより一層進めてまいります。地域や保護者の皆様からいただく貴重なご意見は、私たちの教育活動の大切な指針となります。今後とも、よりよい学校生活を目指して努力してまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。